

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森
Tel: 04-7132-8800
Fax: 04-7132-8806
Email: info@konbukuroike.com
URL: <http://www.konbukuroike.com>

2021年11月

第91号

主な予定

柏の葉戦争遺跡
ガイドツアー

12月3日(金)

14:30~15:30

2021年10月17日(日)
こんぶくろ池「きのこ観察会」

川瀬 美幸

- 実施時間：午前10時～正午まで
- 当日の天気(午前9時頃)：15.6°C 雨5.5mm 風速 北北東0.8m/s
- 参加者：一般参加者13名(うち子ども4名)、NPO20名

A：小泉講師班は弁天池側から出発

B：根田講師班はこんぶくろ池側からの出発



前日、16日の下見時に橋本谷さんと園路や観察場所のチェックをしましたが、今年は全体的にきのこの発生が少なく心配になりました。しかし、観察会当日は雨のなか参加者さんがとても真剣にきのこを探してくださり、たくさん発見することができました。見つける人の目が多いほど、成果が上がります！

←星型の可愛らしいきのこ、エリマキツチグリが今年は多く発生していました。

地面に★が落ちているように見えますが、実はきのこの下をめくってみると、落葉に菌糸がびっしり。マット状に落ち葉がつながっています。菌糸が落ち葉を分解して栄養を得ている様子が見られます。



実は、この菌糸こそがきのこの本体。★は胞子を発生させる器官「子実体（しじつたい）」と言い、植物に例えると花や果実のような部分、とのこと。

胞子を飛ばす方法はきのこによって、いろいろ違いがあり、このエリマキツチグリは胞子の入った袋状の部分に外圧が加わることで、粉状の胞子が飛び出していきます。

他にホコリタケの仲間なども同じ方法で胞子を放ちます。雨粒があたっても胞子が飛ぶので、この日は彼らにとっては、胞子活動日和だったのかも？

今年、一度春先にこんぶくろの森で見られたベニタケの仲間やテングタケの仲間なども再度発生していましたが、毎年この時期に記録されていたスッポンタケなど秋のきのこが今年は少ない気がしました。これから発生する可能性もあるので気を付けて見ていきたいです。

また、倉庫前に積み上げられた伐採木からたくさんの硬いきのこが発生していました。採集して裏面（胞子がつく側）を見てみるとそれぞれ違いがあることに気が付きます。ヒダの形状に特徴が出るので、ここを観察するのがきのこを見分けるひとつのポイントです。



←クジラタケ？



←カイガラタケ



園路で観察後、A、B班、採集したきのこを並べて講師からの説明を聞きました。

森の中でいろいろな生き方をしているきのこ。森の植物の多くは菌類と共生していて、菌糸を通して栄養を得たり、逆に菌類に栄養を渡している、とのことでした。特定の植物（樹木）としか自然下では共生しない菌類もいるとか。

こんぶくろの森周辺地域で昔よく食べられていたハツタケも赤松と共生するきのこですが、松が減少するにつれて共に見られなくなってしまいました。



最近、よく見かける橙色の美しいきのこ、ヒイロタケは木材を分解し栄養を得ているきのこですが、樹木を選ばず高温にも強い、という事を聞きました。

また参加者からは「きのこの毒は何のため？」という質問が出ました。毒の成分自体は解析がすすんでいます、きのこが毒を持つ目的はまだはっきりと解明されていないとの事でした。

毎年、決まった時期にきのこ調査をしています、同じ時期でも出たり出なかったり、初めての出会いがあったり・・・。きのこの生態はまだまだ謎だらけで興味は尽きることがありません。雨の中なかの観察会でしたが、安全に、楽しく観察することができました。



きのこ観察会で講師に入っていたいただいた根田先生のオンラインきのこ講座を下記の日程で行います。

森ときこの関係について、楽しい内容のお話しが聞けるとおもいますので、よろしければご参加ください！

(参加費が500円かかります、親子や学生は無料です)

●オンライン講座「菌類学者 根田仁先生の語る【食用キノコの歴史から知る日本の森の歴史】」

はなもく散歩研究会「木と人の出会いをつくるセミナー」

11月17日(水) 19:30～

申込先☎ (PassMarketのページのリンクです)

<https://passmarket.yahoo.co.jp/event/show/detail/02f65neikez11.html>

柏市内小学校の校外学習による来園報告

中川 望

柏市では、こんぶくろ池自然博物公園（以下「当園」とします）を小中学校や地域住民の「環境教育の場」と位置付けています。そして、当NPOも事業目的の一つとして「自然環境の大切さ等を理解出来る環境教育などの啓発活動」を掲げ、柏市と協働し、種々のイベント開催等を通じて「環境教育の場」としての当園の活用を呼びかけ続けてきています。

これらの諸取り組みの結果、柏市内小学校のうち、毎年数校が当園を小学3年生の校外学習の訪問先の一つに選択なさっています。因みに2017年（H29）以降の来園校数は下記のとおりで、増加傾向にあります。

年度	来園校数（*1）	来園者数	小学校名	備考
2017（H29）	4	476	十余二・柏第五・酒井根・旭	
2018（H30）	4	410	十余二・西原・酒井根・柏第四	
2019（H31&R1）	5	469	柏第五・酒井根・旭東・土・柏第四	
2020（R2）	2	246	柏第一・十余二	コロナ禍のため来園校数減少。
2021（R3）	7	575	十余二・松葉第一(*2)・土・柏第四・旭東・松葉第二・柏第六	(*2) コロナ禍のため校外学習中止となった。

(*1) 申込後に校外学習が中止になったケースも含めています。



当園内の見学時間は各校で異なりますが、概ね30～60分程度であり、当NPOメンバーがガイドを担当しています。見学した児童および引率の先生方は皆さん、「自然環境に触れられた」と喜んでおられます。この校外学習による見学がきっかけで、児童のみではなく、そのご家族を含めて一人でも多くの方々が当園のファンに（できればサポーターに）なってくださることを願っています。

ところで、小学校の校外学習の来園校数がさらに増えてもらいたいのですが、そのためには解決すべき課題があります。それは、当園内または付近に大型バスの駐車場がないことです。そのため現在は、徒歩で約20分という離れた場所にある県立柏の葉公園駐車場に大型バスを駐車し、そこから先生方が引率して歩いて来ているのです。これは、貴重な時間のロスになると共に、引率なさる先生方にも大きな負担となっています。現在、この課題の早期解決に向けて柏市に対応要請中ですが、一日も早く当園内または付近への大型バス駐車の実現してほしいものです。

10月理事会

(日時) 2021年10月30日(土) 10:00～13:00

(出席者) 岡本、上田、藤原、中川、萩原

1. 審議検討・確認事項

- (1) 11月開催「里山の保全活動体験会」の準備状況について
 - ① 中川理事より10/29時点の申込状況の報告が行われた。
- (2) 11/14(日)開催「秋の森の自然観察とワークショップ」について
 - ① 藤原理事より10/29時点の申込み状況の報告が行われた。
 - ② 11/7に調査班内にて当日担当者の確認を行う。担当者数が不足する時は里山班が支援する。
- (3) NPO定款改正について
 - ① 改正案の説明および協議を実施。本日の結果を踏まえて改正案の修正を行い、継続して協議を行うこととした。
- (4) 11～12月活動計画
 - ① 活動計画内容の確認を実施した。

2. 報告事項

(1) 全体

- ① ナラ枯れ被害木対処の合同確認(10/5 13:30～16:00)
柏市・森林総合研究所・処置担当業者・NPOの4者合同で実施
- ② きのこと観察会(10/17 10:00～12:00 8組13名)
降雨の影響で5組10名の方々がキャンセルなされた

(2) 調査

- ① 久保田先生トラップ調査補助(3回目10/1&2) ⇒ 悪天候のため中止

(3) その他

- ① 千葉大生2名の「地域活動体験」授業
10/21(日)より再開
- ② コリドーエリア外縁除草(3回目10/24)
- ③ 水質浄化装置のメンテ等(10/26～29)(柏市)
- ④ こんぶくろ池付近のヤマザクラ、公道沿いのハリエンジュ伐採(10/27～30)(柏市)

理事会の議事録は管理棟のファイルにて確認できます。